



獅子座同盟 13 獅子座有志による獅子座アンソロジー

発行：2025. 07. 23 短歌：獅子座有志の皆さん

企画・編集・制作：千原こはぎ (@kohagi_tw) / Illustration：Stan Mikov

獅子座同盟

13

水也	千原こはぎ	杏野白湯	郁羽風	梅うみむ	かわはら	壬生キヨム	麻倉ゆえ	桐野黎	早川夏馬	68	宇祖田都子
	夏生薫	塙散弥音	佐竹紫円	ソウシ	箭田儀一	月岡浅葱	おさとう	森内詩紋	宮嶋いつく	堂那灼風	河原こいし

(誕生日ご投稿順)

獅子座有志による獅子座アンソロジー
テーマ「星・宇宙・星座・獅子・夏」



List of stars in Leo

Abbreviation	Leo
Genitive	Leonis
Pronunciation	/ˈliːoʊ/, genitive /liːˈoʊnɪs/
Symbolism	the Lion
Right ascension	11
Declination	+15
Family	Zodiac
Quadrant	NQ2
Area	947 sq. deg. (12th)
Main stars	9, 15
Bayer/Flamsteed stars	92
Stars with planets	13
Stars brighter than 3.00m	5
Stars within 10.00 pc (32.62 ly)	5
Brightest star	Regulus (α Leo) (1.35m)
Nearest star	Wolf 359(7.78 ly, 2.39 pc)
Messier objects	5
Meteor showers	Leonids
Bordering constellations	Ursa Major Leo Minor Lynx (corner) Cancer Hydra Sextans Crater Virgo Coma Berenices

Visible at latitudes between +90° and −65°.

Best visible at 21:00 (9 p.m.) during the month of April.

炎天下を歩く

退勤の渦にさからうようにしてゆきてたおれる路上の蚯蚓

日傘からのぞくつまさき追いかけて伸び縮みする吾の影法師

生家へとつづく坂道見上げれば赤い扉も逃げ水のなか

ふきあがる力をなくす炭酸のあまみを舌にからめのみ干す

夕立のにおいをさがし立ち止まるひたいをなでる手を待つように

裏道の酒場があつい息を吐く汗にまみれたシャツをめがけて

八月の夜風の果てる池袋けさ息絶えた鳥が燃えゆく



なつ おかおる
夏生薫
@kaorunatsuo

08/19

最近毎月1回の短歌教室に参加しているだけで、投稿などは全然できていません。それでも、獅子座同盟は一昨年、昨年と参加させていただいていたので、なんとかすべりこみで今年も参加できました。参加できてうれしいです。みなさま、よい夏をお過ごしください。

うだるような暑さのなか、日陰も見つけられずに歩いていると、なぜかさびしくなるときがある。いつかの夏に置いてきたものが、もう輪郭も失いつつあるものが、ふと目の前に立ち上がり、すぐにすがたをくらましてしまう。それでも確かにのこるさびしさ。



Shishiza Doumei

スイングバイ

一粒の砂に全天球は満ち真夏の夜の路地は輝く

「メテオ」てふ形をなぞる唇がスイングバイの軌道へ入りぬ

渦巻の宇宙の縁は泡立ちて一斉に夏時間に染まる

土星まで一人旅する三等の客車の窓の立て付け悪し

座標軸定まらぬまま月を越えとめどなく零るる星の砂

シャーベットシャリシャリ崩すコチラデハ受信出来ナイ愛ソシテ海

獅子座から電報届く 当方はミント風味の地球を探す

summer vaccination

叶えたかった析出続く彗星群埋め尽くされた髪は星色

重たげな花火は歪に咲き乱る垂直落下で飛び散る bouquet

ちよつとずつ夜空の色を増やして線香花火にいつか僕等が

きやらきやらと向日葵宿す子のひと喋らなくても感染してく

待ち合わせ風鈴掠め閉じ込めた殻を破って目の前に君

iPod 失くして触れた片耳に 飛び込む蟬の羽ばたく密度

ハーフミラーいちまい隔てて流星群だれかの足元でまだ跳ねてる



地球の重力圏を離れると、唇から星砂がとめどなく溢れ始めたが、土星へ向かう列車は月を越えスイングバイ軌道に入った。
客車の窓は立て付けが悪く、吐出した星砂が地球を埋めていく。
愛が消え、そして海が消えた。
獅子座ではミント味が流行っている。

うそだみやこ
宇祖田都子

@shinnsyutu2020

07/23

先日、嶋稟太郎の第3歌集『羽と風鈴』に衝撃を受けました。それから「短歌は叙景」と思い定め、想いや感情をなるべく書かないよう気を付けて作る練習を始めたのですが、かなり難しいです。ともあれ、その時々好きな短歌を、好きなように作れたら幸せです。



鎧を捨てて氷菓さがしの旅路
近傍を掠る恒星は気配さえ眩しい
エレベータ降りて見上げた宙の
一つの燈火に還ることができる
気まぐれのような軌跡だって
どうにかしがみついてみせる
燃焼するその彩度が
あまりにも尊いと知っているから

おうちねおん
墮散祢音

@RylicaY

08/19

ぼつぼつ短歌に挑戦しています。常日頃から星がよく見えるところに旅行に行きたいと思っています。GUで見つけた“たべっこどうぶつ”のライオンTシャツがお気に入り。夢は有機化学者!

胸に棲む獅子と



それぞれの物語を持つ星座たちを見上げこの先のことを思う
アポロンの守護を受けているのだからわたしもちゃんと輝けるはず
この夜を越えて次の夜も越えてその度に星を味方につけて
できるだけ命をあかるく燃やしつつ太陽に近づけるよう生きる
レグルスがこの胸にだって君臨しこの王国の主はわたし
夏の夜は決意を熱で包みこみ高くたくく燃え上がる炎
迷わずに迷ってもまっすぐ生きよう心に棲む高貴なる獅子と

7月25日に生まれて



まっすぐに飛行機雲が伸びていく 僕の生まれた七月の朝
夏休みひとりで僕はお留守番 想像力で日記を書いた
鳴っている蝉の種類を聴き分ける 君と一緒にいると楽しい
炭酸の小さな粒を数えてる 君の小さなウンに似ている
帰り道フジファブリック聴いている オレンジ色の高速道路
バスを待つ いつもと違う君を見た どうかやさしくふられてほしい
有名になってしまった友だちの悪口言って夏が終わる

68

@strut68

07/25

いつか、自分の描いた絵やコラージュ、短歌をまとめた ZINE を作りたいと思っていて、とりあえず今年は、7月25日生まれてというテーマでTシャツを3枚だけ作りました。

獅子座生まれって、少しカッコ良い感じで、夏とか海とかが似合う、自分の中で勝手なイメージがあるので、そうでは無い獅子座生まれもいるよって発信したい。

さなけしえん
佐竹紫円

@shienkotonoha

08/17

人見知りで臆病で小心者で、甘いものの好きな生き物です。
獅子座はとにかく明るくて陽気、みたいなことをその昔星占いの本で読みました。そのときも納得できず、そして××年後もそのまま対極を生きています。もう私はそういう生き物だと思っようにしています。

疲れ果てて仰いだ夜空は星の輝きで満ちていた。迷って悩んで傷付いて、そんな夜だった。いつも明るく生きることなんて到底できないけれど、獅子座を守護するのは太陽だ、きっと明けない夜なんてない。流れ星。この胸に棲む獅子が咆哮した。誇りを胸に未来を切り拓こう。星の祝福が降ってきた。

星をうめれば

うしろめたいことばかりだ天の川銀河の中にいるっていうのに
星を飲むようにラムネを飲み干せばここは未だ夜の果てなのかも
な
肩口におまえを受けつつジョバンニはもう鉄道に乗っただろうか
物語の広告で埋められてゆくタイムラインを走らせる指
おまえの手をにぎったまんま寝台を目覚めるまでの旅路とすれば
星をはらむ儀式だったよ夜のくちでおまえとふたり飲んだラムネは
連星の距離だと思うジョバンニとカムパネルラがそうあるように

怪我した獅子座

灰白い光に映る右脚の骨格これが怪我した獅子座
はい薬、はい痛み止め、お大事に、送り出される街は真夏日
脚ひとつなくなっても獅子だろか鎮痛剤を太ももに貼る
PTPシートをぐっと押し込めばうまれる星の一錠、二錠
室内で夏もて余す放埒にのびる髪いやこれは鬘
炎天に近づきたくて背を伸ばせ、ない、右脚の熱の重たさ
この次の夏にはきつと海を見にゆこう泳ごう傷のない獅子



毎年花巻に行っている。今年は既に達成済みだ。銀河鉄道の夜は何冊か持っているがまた買った。今回ののは右ページに日本語の原文、左ページに英訳が載っているものだ。試しに読んでみたがなかなかおもしろく、これは英語をマスターしてしまうかもしれないと戦慄したのだが、普通に挫折している。

はやかわ なつ ま
早川 夏馬

@kakahayama

07/25

東北芸術工科大学のクリエイティブでない学科卒。程度のひどいオタク。犬派芝党。ちょろいので夏生まれを好きになりがち。友達超少ない。2019年、短歌沼に落ちる。未来短歌会所属。今年も参加できて嬉しいです。獅子座のみなさん、今年もお誕生日おめでとございます。



右脚を痛めて一月、二月。歩いたり、座ったり、くしゃみをしたりするたびに身体はひとつの線であることを意識してしまう。脳裏に線で繋がれた星が浮かぶ。星座も寝違えたりするんだらうか。

ソウシ

@sixia0uT8BMBIgp

08/15

青森出身。京都の学生だった時を経て、静岡の社会人、だったのですが思いがけず大津で暮らすことになりました。獅子座同盟には久しぶりに参加します。短歌も脚もストレッチが重要だと思う夏。

きれいだった

この服では汗をかくってわかってる わかってたってキスされたいよ
ひまわりの茎をまっすぐ切るようにきみとの距離を整えていた
首ふりの角度に沿って戻るたびわたしの顔を見ない扇風機
見送ればかるく鳴り出す風鈴にもうすこしだけ引きとめられて
手をつなぐ癖がついてた坂道で蟬の死骸をよける足並み
冷麺をすすって笑うあのひとの歯並びだけがきれいだったな
ラムネってたまに無性に飲みたくてたまに無性に声が聞きたい



青い空を見上げるたびに、あの日の影が長くなる。擦り傷に貼られた絆創膏、誰にも言えなかった言葉たち。コンクリートの照り返しがやけに白くて、思い出の輪郭をぼやかしていく。麦茶のがさ、蟬の声のなかに溶けていく名前、すべてが過去形になる前にもう一度、裸足で走ってみようか。

蝕

日蝕か月蝕のようにじわじわと夏と私の蝕が始まる
午睡する夏 無防備なつまさきに想い出が来て口づけをする
星々が果実に変わる夏の夜君のからだもあまく光るよ



皆既蝕の時にしか見えないものがある。
皆既日蝕の時は普段は見えない太陽のコロナが見える。皆既月蝕の時の月は普段とは違う赤銅色になる。赤銅色の月は何度も見たが太陽のコロナを見たことはない。今後の皆既日蝕の予定を見ても、私の残り年齢と行動力を考えたら、見ることなく一生を終わらそうだ。

約束をとこなえた君の唇が夏の音符をついばんでゆく
果てしないひとりどうしの果てしないふたりを包み星の降る夜
夏の日のエンドロールが降りてきて共演として潤む君の名
そう君は気まぐれ 君の記憶さえ蝕の時しか見えないような

きりのれい
桐野 黎

@Tower11710

07/26

一人文芸倶楽部 Tower117 として、詩：塔野夏子、五行歌：南野蕎子、短歌：桐野黎、俳句：星野響、文章：銀野塔と、筆名を分けて何やらいろいろ気の向くままに書いています。獅子座同盟は五年連続五度目の参加です。夏が好きだけど、こんなにやたら長く暑くあって欲しいわけではないのだが。

や た よし か ず
箭 田 儀 一

@Yatayosikazu101

08/14

ネットの片隅で活動している歌人。普段はTwitter(現 X) に生息。『獅子座同盟』には二年連続二度目の参加。今年も「夏」をテーマに詠ませていただきました。

晴れ女の理屈



星好きがまことしやかに語るのは星占いではなく雨／晴れ女／男
雲量8まで定義上「晴れ」だけど星の敵って雨じゃなく雲
冗談で「どうかします」とか言って雲が切れたら私の手柄
曇天に晴れ間があれば晴れと呼び雲間に星があれば星空
毎日が空も心も晴れというわけじゃないから光を探す
大雨のあと晴れ予報 イベントの実施判断で掴む晴夜
諦めず星を探すという意味が小さな晴れにつながっていく

はじまりとおわり



カーテンを開くがごときまばたきで始まりを告ぐ夏の満月
太陽に向かって咲いたライオンがあさることなく照らし続ける
向日葵を片手に歩く帰り道ビタミンカラーを心に灯す
宝石のかけら あなたと繰り出した祭りの後に残る夜空に
満天のダンスホールに降り立って光れ我がレグルスたちよ
瞬きをカウンターとして見ると宇宙単位の“いま”の留守録
ひとしきり笑ったあとに訪れる 沈黙 しし座流星群

つきおかあさぎ
月岡浅葱

@pale_bg_moon

08/12

自分の誕生日がある夏が好きです。夏ってだけでニコニコします。
今年はギリギリ滑り込みの参加になりましたが、二回目も無事に出せてホッとしています。
企画してくださりありがとうございます。来年の獅子座同盟には余裕を持って出せたらいいな、と思います。よろしくお願いします。

夏の空気が好き。日が長く、夜も明るく、気持ちも上を向く。太陽のまぶしさが向日葵と重なる。

暑すぎて嫌われものの夏だけど、獅子座にとっては生まれ月のお祭り。

今年も暑い夏が来た。さあ、ここから私たちの季節が始まる。

あさくろ
麻倉ゆえ

@AsakuraYue

07/29

星空案内人。
宇宙な仕事の有償依頼も増やしたいし、短歌に取り組む時間も増やしたい。
2014～2023年の獅子座同盟に投稿した10年分の作品をまとめた『獅子座な星空案内人のうた』をネブリ&Kindleで出版しました。

星を見るイベントに参加すると、晴れる。
曇っていても、雲が切れて星を楽しめる瞬間があり、短時間ながら場が盛り上がる。よく「晴れ女だね」と言われる。もちろん迷信だけど、実際、晴れて星を楽しめることが多い。もしかすると、晴れや星空を求める意思と選択で、少し運命を操作できるのかも。

なつのさかり

太陽が刺さるといけないそんな日は自宅警備に勤しむ獅子女^{スライシックス}

去年より大きく咲いている気がするあの枯れることのない真夏の花

日焼けする心配のない遊びしよう 天の川までちょっと釣りにでも

予報では今夜は星が降るらしい傘を持たずにひとり出かける

一瞬目を離れたらもう閉じている 名前も知らない明るい花たち

青空に触れるほどの向日葵に追いつけなかった小さい私

夕焼けが零れ落ちてくるような凌霄花の咲き乱れる午後

この星で出会うことになる人々

教訓を何も残さず叔父たちは彼なりにきれいさっぱり消えた

どの国か忘れるくらいに昔だが月の国立美術館長

雪の降る地球を見下ろし模写画家は希望が描かれたキャンパスを抱く

月だけにツイてるはずだと叔父さんはあいつの生まれた日をロトで買う

もうすでに記憶の中しか出会えない人にそれでも会いたい夏だ

挿し絵から抜け出しきみとケンカするために生まれてきた気もするよ

月はもういないと思いたが念のため立つ待ち合わせの場所



花を飾る習慣はないけど、花を眺めるのは好き

実家の玄関と仏壇にはいつも花があった家のそばにもずっと凌霄花が咲いていた小学校のときは野の花をつんだりしていた

今も花を見かけると立ち止まって姿を拝んでいる

おさとう

@sugar_to_osatou

08/12

五度目の参加となった獅子座同盟ですが、今年もなんとか間に合いました。創作意欲の浮き沈みが激しくずっと未熟ですが細く長く続けてきただけあって拙い歌でもなんだか愛おしく思えます。美しい景色や素直な気持ちをありのままに表現する、そういう姿勢を忘れずに短歌に込めていきたいものです。



「あいつ」呼ばわりはよくないと思ったがあいつはもう待ち合わせ場所には来ないのだとぼくは察するべきなのだろうと優秀な超能力者に相談をしたが、彼は夢の世界をよく見ようとして「その眼鏡を取ってくれ」と言うなり安らかに眠ってしまい本当にあいつを待っているのはぼくだけになってしまった。

み ぎ 壬生キヨム

@kiyomumibu

07/30

「かばん」。文学フリマにて自作の短歌の本を頒布しています。

規定航路



打撃音がイヤホンの外で聞こえた 目の前が赤い星でいっぱい
掬えども掬えども零れ落ちてゆく地獄の底での星屑集め
流星群 業突く張りな私でも呆れるくらい降り続けてる
山の中星がきれいによく見える あれはオリオン座、あとは知らない
探査機が規定航路を逸れていく 絶命までのカウントダウン
令和7年7月7日 織姫のガリガリ君が溶けて滴る
太陽が西へと向かい夜勤明け死にそな私とすれ違った

すべて獅子のみる夢だから



ちよっとだけ夏に疲れた顔の君サンドルぬいでひざを抱えて
「カラシ抜き」「紅生姜無し」違うからいいんだ冷やし中華の好み
目があうと吠えそうになる（黙れ、獅子）この胸の奥まだ眠っとけ
アイスラテ甘くなくても飲めるから去年と意味が変わるストロー
願うなら叶うと今は言いきるよヒグラシ短夜をつれてこい
流星群、雲で見えない 曖昧がいいこともある距離感だとか
忘れずにいたい たとえばアルタイル、ベガはホントは驚だったこと

もりうちしもん
森内詩紋

@NJq4oEvg5glcRpu

08/12

イーハトーヴ在住。ふらとてつ短歌会。

月の裏側がぼくらには見えないように
知らないことってけっこうある。
レグルスが実は四重星だってこととか、
カストルとポルックスの距離感だとか。
でも、大事なのは知ることじゃなくて
想像して思いやることじゃないかな？
……なんて、君の横顔の輪郭を淡く淡く
目蓋の奥でなぞる、夏。

かわはう

@suikamikan_kawa

07/30

最近暑すぎていろいろ嫌になってきています。
仕事もかなり繁忙で、だいぶ命燃やしています。

子供の頃に思い浮かべていた航路を逸
れて、想像していたのとは違った大人に
なっている。こっちの道もそれなりに楽し
い。

ライオンは寝ている



ライオンは寝ている朝の太陽に厚顔無恥な玉を晒して

ライオンは寝ているトラは酔っているクマは徹マン明けの表情

ライオンは寝ている谷の奥底でまったり生きることを選んで

ライオンは寝ている飢えた子らのためヌーを仕留める夢を見ている

ライオンは寝ているしかし飛び掛かるための後肢はしなやかである

ライオンは寝ているヒトは起きている時代の波は荒立っている

ライオンは寝ている薄目開けながら隠した爪を尖らせながら

ぜんぶ夏のせい



出迎えの笑顔と素足まぶしくて蚊遣りの煙見てばかりいた

君だけに備わる謎の涼レーダー信じて走るよ氷旗まで

出目金を狙う勝ち気を盗み見て跳ねた飛沫と鼓動かさなる

今、なんて？ 何でもないと思えず頬ひらく大輪赤く染めゆく

夜の森ひやり足もと通る風ためらう君の手取って歩いた

足裏の熱に飛び跳ねた僕にビーサン放る無敵のビキニ

浮かされていた踊っていた逃げ水と砕けた波と砂の城あと

うめ
梅ふふむ

@umefufum

07/30

短歌初心者ですが、獅子座さんが集う企画ということで居ても立ってもいられず飛び込みました。写真や動画になっていないのに、なぜか焼きついている光景ってあると思うんです。夏の暑さに頭が茹だってしまったあの時、馬鹿馬鹿しくも愛おしい瞬間がよみがえるお手伝いのできたら嬉しいです。

夏期講習の最終日、打ち上げと称してクラスの人々とカラオケに行った。メロソニーで乾杯をして、歌ったり踊ったり、緑色の舌に大笑いしたり。帰り道、あの子と二人きりになったタイミングで「模試が終わったら遊びに行こう」って言われてちょっとドキッとした。君はあの約束のこと、覚えてるかな。

みやじま
宮嶋 いく

@miyazima_izq

08/11

私が生まれた頃の夏はこんなに暑くなかった、というのは単なる郷愁ではないようである。あと、冷却したところでゆで卵は生卵には戻らないのである。

獅子座同盟。これまでお題「獅子」縛りで参加し続けてきたが、とうとうネタが尽きてしまった。困った。困ったが悩ませる頭がないので、寝るしかないのである。

星屑たちへ



星々を拾い集めて閉じ込めた瓶を眺めて、共犯者だね

月 死んだアシナガバチを埋めるときぼくの背骨に染み込むひかり

オリオン座しか分からないあなたへの花束として流星群を

裏切りはいつもしずかにやってきて（彗星）あなたの呼吸が荒い

おしまいの宇宙で食べるドロップの甘さでなぜか泣きそうになる

最果てはモノクロームに包まれてそれは真夏の夜に似ていた

ぼくたちはつめたい銀河の上澄みへそっと金魚を放つ、さよなら

人倫



恐竜を狩っただろうか白亜紀に王と臣民があったなら

石器から鉄器へ数歩の室内に時間と空間の不連続

矢を槍を突き立てられて死ぬ獅子がひとつの場面としてうずくまる

憐れむも憐れまないも人のみち狩られて祀られるライオンを

夕日には夕日の色になるだろう雪花石膏^{アラバスター}の王の素肌は

獅子狩りの王の隣に立つ兵はそれから かれの国は破れて

アッシリアに大帝国は今はなく悪いライオンもまた去りぬ

どう なしゃくふう
堂那灼風

@shakufur

08/10

Twitter（現 X）をほとんど見なくなり、ネブリにもあまり参加できなくなっていました。岡山への出張が増えたため先日は市立オリエンタ美術館へ遊びに行きました。

ライオンのような強い獣を狩ることには古来様々な意味があるという。アッシリアのレリーフは儀礼的な狩猟であって、獅子狩りは王にのみ許された行為であったとか。このとき狩られたライオンも、権力のある王様も、現代の地上にはほとんど残っていない。

いく は なぎ
郁羽 凧

@ikuha_nagi

07/30

新美南吉と誕生日が同じです。最近はエナドリではなく特茶を飲むようになりました。日本語を最も宇宙に近づけられるのは短歌なのではないか、という気持ちで短歌と向き合っています。

出会いと別れはいつも静かに、そしてぼくたちのすぐそばにある。この宇宙のどこかにあなたもぼくも存在しているけれど、いつかは消えるのだ。紛れもなくこの世界の断片であり、ぼくたちの胸に刻まれる記憶の粒。自由なきらめきは、近づいて遠ざかる。さよなら、そしてまたいつか。

獅子を飼う人



黒髪に眼鏡・スカート・ボウタイのわたしはここにライオンを飼う
外見はおとなしいのになんて言う人へ笑って犬歯を見せる
ふわふわの尻尾も鞭でしなやかに背中の中を羽虫を獣はこらす
番犬の代わりに飼ったライオンがざらつく舌で舐めるてのひら
百獣の王のノブレスオブリージュ生きづらさなどころしてあげる
突き立てる牙にはブルブラックのインクを 蓋はまだ閉じておく
わたくしはわたくしでいるかわいいが好きでここに獅子を飼う人

かわはう
河原 こいし

@_little_word_

08/07

圧倒的犬派。獅子座だと初見で当てられたことはありませんが、しっかり苛烈です。

「冬生まれでしょ?」「獅子座には見えない」なぜかよくそう言われます。「見た目と違った」「こういう人だと思わなかった」そう言う人もたまにいらして、わたくしは笑顔を浮かべたまま心の中の獅子をゆっくりと撫でています。

あつくひかる星



さみしさを誤魔化すように息をする分だけ腕をひらく星雲
羊水で星のかけらを食んできた獅子のまなこで私を食べて
舌先がなぞる口蓋 R I O Nになれたらいいと思う真夜中
S P F 50+で護られる程度の夏に目覚めてほしい
顎の下なでると吠える動物は幸せにならなければならぬ
なぜ星が燃えているのか知っていて火中で光る前腕の骨
恒星は光り続けてまた別のエンドロールを見届けてゆく

あんのさゆ
杏野 白湯

@haj2l6

07/30

アイドルオタクな短歌詠み。獅子座同盟に2年連続参加できて大変喜ばしいです。暑さに強いタイプの生物ですが、今年はさすがに元気がなくなってきました。

暑すぎる夏をも溶かす熱さがあった。夜になっても下がらない気温、どこまでも肌を焼く日差し、すべてが前座になってしまうくらいの暑い日々を経て、普通の星はつまらなくなった。

星と星ほど

珍しく雨の降らない七夕にやっと逢えたと何度も言った

スーパーを出てつなぐ手の熱帯夜マンションまでをふわふわ泳ぐ

鶏肉ときのこを焼いたそれだけの手料理 はじけすぎてるビール

星ひとつ見えない街のベランダでソーダアイスを交互にかじる

幽霊になったみたいだから夜の夜を包まれながら見下ろす

宇宙っておかしなことも起こるから手を離さずに生きていこうよ

明日には星と星ほど遠いひと 見ないふりだけじょうずになった



七夕に雨は降らずに、珍しく今年は逢えたのか、と思った。暗い空、暗い雲だけが広がって、星はひとつも見えてなかった。この街の明るさのせいかもしれない。むあっと暑いベランダに出て、水色のソーダアイスを齧り合う、ただそれだけがそれだけじゃなく、たぶんこの夏のいちばんしあわせな夜だ。一生忘れないやつ。

星の予へ

消えていくだけのわたくし 散らばったかけらは燃えて手を伸ばしたい

深遠とよべる無のなかで見つめる煌々とひかりをはなつもの

夏の夜の空を見上げて思い馳せ明日へ踏み出す一歩を知って

まだここへきてはいけないきつといつかには届くよはじく指先

氷砂糖を眺めては瞬間を閉じ込めておく痛むまなうら

数え切れないくらいだとゆびさして線をつくってあなたをつくる

夜に還る子らよ、草原を駆ける遠い背中に近づけるまで



燃え尽きる前に話そう。どんなことでもいい。きみが生まれた日のこと、初めて食べたかき氷。舌が青くて、頭が痛くて、冷たくて？
なんだっていいから話してよ。ぼくは、わたくしは、ああもう。星は消えていくけれど、この声が届くころ星はいないのだけれど、でもきっときみは歩いているはずだから。

みや
水也

@m_iya_o

08/02

暑さにとろける毎日です。でもエアコンで冷やされてもふもふに触るとあったかいのは心地よいです。それはそれとして涼しい夏概念が欲しいです。体のまわりだけ秋など。

うはろ
千原こはぎ

@kohagi_tw

07/31

隔月刊の短歌誌「うたそら」編集鳥。鳥歌会・滋賀で歌集を読む会主催。短歌アンソロジーや折本歌集などを作っています。
歌集『ちるとしふと』（書肆侃侃房）、短歌本『これはただの』（私家版）。
楽しいことをしていくしかない。